尹奉吉義士の金沢殉国と顕彰事業

金祥起(忠南大学校)

- 1. はじめに
- 2. 金沢への移送と殉国
- 3. 遺骸の奉還および孝昌園安葬
- 4. 顕彰事業
- 5. おわりに

1. はじめに

尹奉吉は「無知」が祖国滅亡の一因であることを悟って夜学を開設するとともに農村啓蒙運動を展開した。学芸会事件と光州学生運動を目の当たりにして民族的差別を痛烈に感じ、それを打開するために亡命し、上海義挙を敢行した。韓国独立運動の歴史において上海義挙ほど大きな成果を上げた活動を探し求めるのは容易ではない。尹奉吉は、逮捕され死刑宣告を受けた後、金沢の陸軍第九師団の敷地内の山麓で銃殺され殉国した。日本はその遺骸を陸軍墓地管理所の下の道端に暗葬した。

本稿は尹奉吉が死刑宣告を受けた後、日本に移送され大阪衛戍監獄を経て金沢で殉国するまでの過程を検討する。そして、解放後に金九の指示により実施された遺骸奉還の過程を概観する。そのうえで、解放後の上海義挙記念行事と日本で展開された「尹奉吉義士暗葬之跡」保存と記念事業などについて確認してみる。

尹奉吉の日本への移送過程と殉国地、そして顕彰事業については部分的に検討されたことがある¹⁾。しかし、本稿では資料をもとにしてそれを新たに明らかにし、特に日本における暗葬之跡の保存と管理について集中的に究明しようと思う。金沢地域の朴仁祚をはじめとする在日朝鮮人たちと日本の市民団体は「尹奉吉義士暗葬之跡保存会」を組織して暗葬之跡を管理してきた²⁾。彼らはその場所が尹奉吉を暗葬した所であり、同時に尹奉吉の遺骸の一部が残っている墓であるという認識を持っている。最近この場所を訪れる韓国人が急増しているが、これは彼らが真心を込めて管理してきた結果であると言える。

2. 金沢への移送と殉国

上海の日本憲兵隊に拘禁されていた尹奉吉は、1932年5月25日、軍法会議で死刑の宣告を受けた。



続いて、上海派遣軍司令官(代理)は5月28日に、当分は死刑執行を延期するという命令を下した。 これは金九の隠れ家を自白させるためであった。石射猪太郎上海総領事は、9月21日に内田康哉外務大 臣に送った公文書で、その理由を以下のように詳しく述べている(以下、史料からの引用については、 翻訳者が句読点を補い、旧漢字を当用漢字に改めた)。

憲兵隊引揚前、尹奉吉ノ死刑ヲ執行スル事ハ、今日尚引続キ金九逮捕ニ鋭意努力シ居ル関係上、 当館_(ママ)トシテハ賛同シ難ク、且、今俄ニ之カ執行ヲ了スル事ハ、今日迄延期ヲ為シ来レル意議ヲ 失スルモノト言ハサルヲ得ス。但シ、身柄ヲ当館ニ拘禁シ置ク事ハ規定上困難ナルノミナラス留置 場ノ設備不完全ニシテ万全ヲ期シ難ク、且、尹拘禁ノ事実漏洩ノ恐モアリ、寧ロ之ヲ内地ニ移送シ 然ルヘク拘禁シ置ク様致度ク有3)

すなわち、日本総領事としては、金九を逮捕するためにこれまでずっと努力してきたことを考えるなら、いま死刑を執行することは、今日まで死刑の執行を延期してきた目的を失うことだとして、尹奉吉の死刑執行に賛成しがたいと語っている。そのうえで、上海憲兵隊の留置場施設が不完全なので日本に移送して拘禁することを要請している。尹奉吉は上海憲兵隊に拘禁され、もちろん金九の隠れ家についての自白を強要されながら取り調べを受け続けた。10月11日には上海派遣憲兵隊陸軍司法警察官陸軍憲兵軍補の須藤貞一郎の取り調べを受けた。その内容が記載されている文書「聴取書」を見ると、主に遺書を書いたいきさつが記されている。誰の要求で書いたのか、遺書の内容はどういうものか、遺書に書かれている履歴は事実と合っているのか、遺書に書かれている「柿梁里が」という文言は誰の依頼を受けて書いたのかなどを尋ねている。その後10月19日に上海総領事は外務大臣に「尹奉吉烈士の自叙略歴と遺嘱」との文書が謄写版で印刷され韓人に配付されたという事実を報告し、尹奉吉を尋問した「聴取書」を添付した。

上海日本総領事は、憲兵隊の将校28 人だけを残して、11月28日に全員帰国することにし、そのため尹奉吉を日本に移送したことを外務大臣に報告した4)。日本は上海憲兵隊が撤収することになるや、結局、尹奉吉を日本に移送することに決定したのである。尹奉吉は憲兵隊の撤収の直前である11月18日に日本郵便輸送船の大洋丸に乗せられ上海を出発し、神戸港外の和田岬水上署待機所に午後2時40分頃に到



図 1 『大阪朝日新聞』1932 年 11 月 21 日

着した。尹奉吉は3時頃に船から降り、隣接した医務室で簡単な健康診断を受けた。それから手錠を掛けられたまま私服憲兵に囲まれて、予め準備されていた快速船の摩耶丸に乗せられた。摩耶丸は和田岬に向かう振りをして方向を変え、三菱造船所のドックに入った。そこには前もって秘密裏に自動車3台

が準備されていた。尹奉吉はそのなかの「兵庫 1422 号」ナンバーの自動車に杉山曹長とともに乗せられ、 10 名余りの憲兵が分乗した 2 台の車が前後を警戒しながら、神戸市内を縦断して阪神国道を通って超高速で大阪に向かった 5 。

尹奉吉を乗せた自動車は大阪城の後門である玉造門を通り、午後5時頃に陸軍衛戍監獄の非常口に到着し、直ちに衛戍監獄の未決監中央建物の独房に収容された。尹奉吉は黄色の囚人服を着た。食事は軍人に与えるものが提供された。彼はここで1か月近く独房生活を送った。

宮井刑務所長によると「すなお」だったとのことで、尹奉吉が情緒的に不安定な状態ではなかったようである。『大阪朝日新聞』は尹奉吉が大阪衛戍監獄に最初に収監されたときの姿を「案外すな



図2 大阪衛戍監獄跡(現・豊国神社)

おであるが気のせいかむずかしい顔つきで私を見ていた。別に調べることもないので、まあゆっくり寝るがいいと申し渡して、浅黄の着物と着替えさせ独房に収容。兵隊の食事のような晩飯を与えたところ、うまそうに食っていた」⁶⁾と報じた。



図3 大阪衛戍監獄図(新谷宏作成)

尹奉吉は12月18日に大阪衛戌刑務所から金沢に移送された。尹奉吉が大阪に拘禁されている時に大阪市内には尹奉吉の銃殺に反対するビラが撒かれたと言う。その活動は日本反帝同盟関西委員会大阪泉南地区委員会が主導したものだった。彼らは「1)8.1反戦闘争の国際的カンパに大韓在大阪革命的朝鮮労働者は先頭に立って決起しよう。2)朝鮮人が生んだ反帝国主義者尹奉吉の銃殺に対して反対闘争を起こそう」7)と書かれた印刷物を各地に配布した。そのため、日本の官憲は

大阪で尹奉吉の死刑を執行することに負担を感じ⁸⁾、上海派遣軍の主力部隊であった第9師団がある金 沢に移送したのだと思われる。

金沢への移送過程について憲兵隊司令官の秦眞次が死刑を執行した後の12月26日に陸軍大臣荒木貞夫に送った報告書に次のように記されている。

犯人尹奉吉ハ大阪衛戍刑務所ヨリ大阪憲兵隊本部准士官以下四名ノ憲兵(私服) ニ押送セラレ、 一二月一八日午前六時二十五分大阪駅発、同日午後四時三十五分石川県河北郡森本駅に下車、直ニ 自動車ヲ以テ密行シ、午後五時五分金沢衛戍拘禁所ニ収容セリ⁹⁾

この史料によると、尹奉吉は大阪憲兵隊の憲兵たちによって押送され、12月18日の午前6時25分

に大阪駅を出発し、午後4時35分に森本駅で下車した。金沢市では憲兵隊はもちろん廣坂と玉川の警察署の警察が総動員されて警戒に当たった。尹奉吉は到着するやいなや手錠を掛けられた。そして直ちに自動車に乗せられ、午後5時5分に金沢衛戍拘禁所に収容された100。金沢憲兵隊では12月17日に第九師団軍法会議検察官と協議して尹奉吉の護送を極秘裏に企画し実施した。

金沢憲兵隊ニ於テハ、十二月十七日、予メ死刑囚ノ到着並ニ刑ノ執行間ニ於ケル警戒等ニ関シ、第九師団軍法会議検察官ト諸般ノ打合セヲ了シ、尹奉吉ノ護送到着並ニ死刑執行ハ絶対極秘トナスへク企画シ、十二月十八日午後三時、金沢分隊下士官一名ニ自動車ニ台ヲ伴行、森本駅ニ差遣シ、金沢分隊長及ヒ上等兵一名ヲシテ密ニ松任駅ヨリ死刑囚ノ乗車セル列車ニ乗リ込ミ、押送中ノ大阪隊憲兵ト打合セ、金沢駅ヲ通過シ、森本駅ニ下車セシメ、同駅ヨリ金沢衛戍拘禁所ニ至ル間、自動車押送ヲ行ヒ、新聞記者等ノ探索其他衆目ニ触ルルヲ避ケ、以テ不逞者ノ不穏策動其他見物等ヲ絶対警防セシメ…10

これによると、12月18日に憲兵分隊の憲兵を自動車2台に分乗させて森本駅に送って待機させ、分隊長と上等兵は松任駅まで送って汽車に乗車させ、大阪隊の憲兵と協議して金沢駅の次の森本駅で尹奉吉を下車させるようにしたのである。そして、自動車で衛戍拘禁所に押送したのであるが、これは新聞記者と「不逞者」、そして見物人らの衆目を避けるための対備策だった 120。

衛戍拘禁所に到着した尹奉吉は、陸軍一等軍医の瀨川吉雄から健康診断を受け、心身ともに異常なしと報告された。第九師団長の荒蒔義勝は、陸軍大臣の荒木貞夫が送った尹奉吉の死刑執行命令書を受け取って軍法会議検察官である根本莊太郎に命令書を渡した¹³⁾。師団長は検察官から19日午前7時に死刑を執行するという報告を受け、死刑場の警戒のために歩兵1個小隊(将校以下19名)の派遣を歩兵

第七連隊長に命令し、検察官に は警戒のために金沢憲兵隊長と 連繋するように指示した。なお、 死刑場の予定地に予め検察官と 幕僚を送り、尹奉吉と射手、立 会者など、入場許可者の位置等 が決められた。

刑場は石川県石川郡内川村字 三小牛地にある金沢陸軍作業場 の西北部の谷間であった。ここ は山の中に位置し「公衆ニ危険 無ク、又、交通希薄、且、東方 ノ断崖ハ高サ約七米突アリテ… 刑場ニ最モ適当ナル地」¹⁴⁾ と考 えられたのである(図 4・5)。

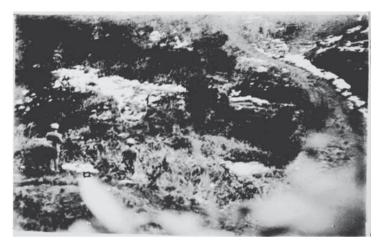


図 4 尹奉吉死刑執行現場(『滿密大日記』)

尹奉吉は死刑執行の日は朝まで睡眠をとることが出来なかった。刑務官の話によると、自信満々であった彼もその夜は一睡もできなかったという。尹奉吉は翌日の12月19日の朝6時30分刑務長と刑務官2名、憲兵3名の護衛の下、法務部を出て午前7時15分に刑場である三小牛山陸軍作業場に着いた。この時尹奉吉は「ネズミ色の中折れ帽」に「スーツ」を着ていたという。

検察官が射撃を命令した時刻は 7時27分であった。尹奉吉の殉 国時間が11時40分だという研究 もあるが、これは間違いと考えら れる。射手は正、副2名で軍曹中 野吉三郎と軍曹横井外吉であった。 彼らは検察官の指示により刑台か ら10メートル離れた位置から四 つん這いの姿勢で射撃した。正打 手が射った一発が尹奉吉の眉間に 命中した。医官が銃傷を調査し絶 命したことを確認してから検察官 に報告した。この時の時刻が白川



図 5 尹奉吉殉国地の現況(道路の左・著者撮影)

義則が死んだ時刻とほぼ同じ時間である7時40分だった。第九師団長は当日10時7分に「本日午前七時四○分尹奉吉ニ対スル死刑執行無事終了ス」という電報を陸軍大臣に送った¹⁵⁾。

防衛庁図書室に所蔵されている『滿密大日記』(1933年)に尹義士の殉国場面を撮影した写真がある。 尹義士の眉間の中心部に豆粒大の血痕が鮮やかに写っている。十字架の刑台に縛り、筵の上に跪かせた まま死刑を執行したことが確認できる(図 6)。



図 6 尹奉吉殉国場面(『滿密大日記』)

尹奉吉の遺骸は日本の監獄法に基づいて 家族に引き渡されるべきであった。しかし、 彼らは遺骸を棺に入れて刑場から約3キロ メートル離れた野田山陸軍墓地に隣接した 金沢市共同墓地の西側の一隅に6尺の深さ で埋葬した。終了した時刻は10時30分で あった。案内所から監視しやすい所にある 共同墓地の通路に平土葬し、何の印もせず 痕跡さえ無くしている。尹奉吉の死刑執行 を終えた検察官は、当日午前11時に検察

府で金沢の新聞記者団に尹奉吉の死刑を 19 日午前 7 時 40 分金沢市の郊外で銃殺により執行したと公表 した 16 。

尹奉吉の遺骸については新聞では火葬したと報道された。しかし、報道とは異り火葬にはしなかった。 陸軍刑法により陸軍墓地に埋葬されることもなかった。 陸軍墓地の下の、一般人が往来する通路に暗葬

RiCKS コリア研究 第9号

したのである。憲兵司令官秦眞次の報告書には「死刑執行ヲ終ルヤ直ニ遺骸ヲ清メ納棺ノ上…金沢市野田山陸軍墓地ニ接続セル金沢市共同墓地両側ニ深サ約六尺ヲ堀開同所ニ埋葬シ午前十時三十分全部終了セリ」¹⁷⁾ とあり、野田山共同墓地の片隅に埋葬されたことがわかる。また、同報告書には「要注意者特ニ鮮人左傾分子又ハ不逞分子ノ動静ニ関シ憲警密接ナル連繋ヲ保チ厳重視察中ナル」と記されていることから、死刑執行後にも徹底的に盗掘を監視したことが分かる ¹⁸⁾。尹奉吉の遺骸はその 13 年後に発掘されるまで往来する人々によって踏みつけられた。ここからは遺骸を侮辱しようとした日本軍の意図が読み取れる。なお、通路に埋葬することによって万が一あるかも知れない盗掘を監視するためでもあったと思われる。

尹奉吉の殉国の消息は朝鮮国内の新聞に報道された。12月21日付の『朝鮮日報』は以下の通り、銃殺刑を執行した事実を伝えていた。

上海爆弾犯尹奉吉(25歳)は上海派遣軍軍法会議で死刑の宣告を受け、しばらく大阪陸軍拘留所に拘禁されていたが、事件発生後8ヶ月足らずに過ぎない18日の夕刻に憲兵の護衛の下で大阪陸軍拘留所から金沢に護送され、19日午前7時40分に金沢市の某所で銃殺刑が執行されたが、軍隊で銃殺を実行したことは軍法会議でも滅多にないことであるという。19)

この記事で尹奉吉を「爆弾犯」と呼称している点には、植民地下における朝鮮言論界の認識の限界が 示されている。

尹奉吉が殉国したまさにその時刻に、母親の金元祥は息子が中庭に走ってくる夢を見た。悲鳴のような声で母を呼んでいた。母親は嬉しくて両手を広げて振りながら夢から覚めた。当日は舎廊房 [客間兼主人の書斎として使う部屋] の門の帯杖が落雷で折れてしまった²⁰⁾。その何日か後に柿梁里の故郷の実家に尹奉吉殉国の便りが届いた。国内のすべての新聞が先を競って殉国の事実を掲載した。婦人の裴用順は織機を織っている最中に夫の悲報を聞いた。悲報に接した夫人は織機から離れることができず、泣くことさえもこらえたまま、夢かうつつかと、ただ呆然としているだけだったという²¹⁾。

尹奉吉の殉国後も日本官憲の家族に対する監視は相変わらずであった。親日派たちの差別と虐待もそれに続いた。そんなある日、遺品が家に届いた。血痕が染みついた白い手ぬぐいと義挙の当時に身に着けていた懐中時計と中国中央銀行発行の2角紙幣一枚、そして銀銭9個が印章と一緒に包まれており、レンズのない眼鏡入れもあった。懐中時計は義挙直前に金九と交換したものだった。家族は遺品を抱きしめてわっと泣き出した。父親の尹堭は息子が死刑に処されたとの消息を聞いて、1933年2月7日に禮山警察署に行き「遺骨でも送ってくれることを父親の立場として切に願います」と金沢衛戌拘禁所宛に遺骨引渡申請書を提出した。しかし、日本側は監獄令により火葬した後に墓地に埋葬したので遺骨を提供することができないと言って遺骨引渡申請を無視した22。尹奉吉は火葬されておらず埋葬されたのであり、日帝の虚偽の処置がはっきりと分かる。それどころか、遺骨奉還を要求したことを理由に父親を徳山駐在所に呼びつけて尋問をしたうえ、ものものしく監視した。母親は息子の殉国後にも苦しめる警察らが来ると「私も殺せ」といいながら力をふりしぼって闘った。柿梁里の実家はただでさえ困難な生活に置かたうえ、日帝の弾圧によって二重苦を味わった。

幸にも、日帝の監視にも関わらず、志のある人々からの慰労と激励があった。アメリカのケンタッキー州に居住していた韓一眞は、殉国した 12 月 19 日付で手紙とともに 25 ドルを送金した。彼は手紙に尹奉吉から借りたお金を返せないままでいたが、最近収入が入ったので以前の借りを返すのだと言った。その後も韓一眞は 150 ドルを送ってくれた ²³⁾。韓一眞は青島からアメリカに渡るときに尹義士から旅費を借りたことがあった。尹義士は残りの旅費をすべて彼に渡し、自分は洗濯屋で旅費を稼いで上海に行ったのである。

3. 遺骸の奉還および孝昌園安葬

尹奉吉の遺骸発掘と奉還は、1946年3月に遺骸奉還団によって推進された。解放された1945年の11月に禮山郡徳山では「尹奉吉先生遺骨奉還委員会」が組織された。委員長には鄭寅英が選任され、200名余りが参与した。この委員会を代表して金寛龍が1945年11月29日に上京し、金九にその主旨を伝えた240。金九は尹奉吉を含め李奉昌、白貞基の三義士の遺骸奉還のほか碑石建立などの顕彰事業を臨時政府として施行すると述べた。これによって、禮山で結成された委員会は解消された250。遺骸奉還団は東京にいた朴烈(1902-1974)をはじめ新朝鮮建設同盟と在日本韓人建国青年同盟の中心人物であった李康勳(1903~2003)と徐相漢(1901-1967)らが参与して組織された。遺骸奉還団は尹奉吉、李奉昌、白貞基の三義士の遺骸を奉還することにし、墓地の位置を確認した。李奉昌義士は1932年10月10日に東京の市谷刑務所で死刑を受け、埼玉県浦和市にある浦和刑務所に埋葬されていた。奉還団は浦和刑務所で教誨師として働いた日本人を探して李奉昌義士が浦和刑務所の付属墓地に埋葬されていることを確認し、遺骨を収拾することができた。白貞基の遺骨は李康勳と同じ監獄に収監されていたので容易に探すことができた。最後に尹奉吉義士の遺骨を探さなければならなかったが、場所の確認ができなかった。

徐相漢と李康勳をはじめとする 4 名の「臨時政府遺骸発掘団」が金沢に着いたのは 3 月 2 日午前 10時頃であった。3 月 3 日から金沢に居住する青壮年たちは役割を分担し、作業道具を準備するなど、発掘を開始した。徐城民が発掘本部長を担い、朴甚燮、金昌律、朴東祚、朴聖祚、盧慶洙、具範植、金基億らの人々が発掘に参与した。3 月 6 日になって、埋葬する時に読経を読んだという覚尊院の山本了道という尼僧の助力により、埋葬地を確認し発掘することができた。血のついた服が見えて遺骨が現われるや、全員がしていた仕事を止めて黙念を捧げた。医大生であった朱鼎均ら 2 名が遺骨を収拾して新しい棺に移した 260。

遺骸は金沢在日本朝鮮人連盟本部の事務室に移されてから、3月8日の朝に金沢駅を発ち、翌朝東京の上野駅に到着した。先に発掘された李奉昌と白貞基の遺骸は東京の荻窪にある旧陸軍大学の建物内の新朝鮮建設同盟事務室に安置されていた。尹義士の遺骸が上野駅に着くと、既に事務室に安置されていた李奉昌、白貞基の遺骸を先頭にして、尹義士の遺骸を迎えた。それから青年同盟員3千余名が三義士の遺骸を先頭にして、李奉昌が爆弾を投げた桜田門の中に入って演説し愛国歌を斉唱し、皇居の中まで響けとばかり万歳三唱をし、再び本部の事務室に安置した。朴烈をはじめとする数多くの同胞や学生たちが参拝した270。

RiCKS コリア研究 第9号

尹奉吉の遺品のうちの紫色の背広、中折れ帽子と黒い靴は、1946 年 4 月 25 日に新朝鮮建設同盟中央本部副委員長であった李康勳が、外務部長の劉虎一、次長の金正柱、金基成らとともに、ソウルに持ち帰った。この遺品はソウルの金九の宿所に安置された ²⁸⁾。尹奉吉ら三義士の遺骸はマッカーサー司令部の軍艦で 5 月 15 日朝 9 時に釜山に到着し、大昌洞のナムソン高等女学校に奉安された。金九の指示により、日本にいる同胞を中心に組織された「大韓殉国烈士遺骨奉安会」の代表である徐相漢は建国促成青年同盟の朴根世、在日本商工会議所の趙春美、学生同盟の白相弼らと共に尹奉吉をはじめとする李奉昌、白貞基、金清光、金錫水、洪性周、朴尚祚ら 7 人の遺骸に仕えた。これらの遺骨は 5 月 17 日に釜山中区大倉町(現在の中央洞)にある府立幼稚園に設けられた賓所に移され奉安された ²⁹⁾。そして 5 月 31 日の午後 6 時から、大韓独立促成会主催で追悼会を開催した ³⁰⁾。

6月15日には、尹奉吉ら三義士の追悼式が釜山公設運動場で開催された。金九は追悼式に先だって釜山に到着して賓所で焼香、参拝している。追悼式は15日の正午から崔碑鳳の司会により開催された。追悼式においては、国旗拝礼、愛国家合唱、独立祈願の黙想、追悼奏楽などが行われた後、徐相漢から三義士の略歴報告があった。続いて、各団体代表の焼香を終えから、金九の訓話と金相淳の答辞があった。それから、大韓独立万歳を高唱して閉会した310。

翌6月16日の朝、尹奉吉義士の遺骸は弟の尹南義に抱かれて、金九の一行と一緒に特急列車「解放者」号で釜山を発ち、午後5時40分頃にソウル駅に到着した。ソウル駅のプラットホームには、金奎植博士を始め、元世勳、趙琬九、咸尙勳など、政党団体や新聞社の代表らが立ち並び、三義士の遺骸を出迎えた。ちょうどその時に夕立が降りはじめた。けたたましかった電車の騒音も自動車の音も雨の音に消された。出迎えの人々は、青年団体が掲げた弔旗の前で少年団の奏楽に合わせて一斉に頭を下げ、感激と悲痛の涙を流しながら三義士の奉迎式を挙行した。奉迎式が終った後、遺骸は奉迎車に奉られて、現在の曹溪寺である太古寺に安置された32。

尹奉吉ら三義士の国民葬は、当初は6月30日に予定されていた。葬礼委員会では、葬礼式の当日行事について、以下の5項目を新聞によって伝えた。

- 1. 三烈士の国民葬の日である30日は、それぞれの家に国旗を掲げること。
- 2. 哀悼の意を表して、自粛する誠意により、普通の飲食店を除いて、その他一切の歓楽場は休業すること。
- 3. 30日の葬儀日を避けて、各地方では地方(府、邑、面)ごとに追悼式を挙行するが、ソウルでは19日に挙行すること。
- 4. 追悼式の手続きは地方の事情に合わせて適切にすること。
- 5. 三烈士の略歴は印刷中であるため、印刷でき次第、直ちに送ることにしたこと ³³⁾。

それ以降、連日弔問客が太古寺を訪れ、6月21日までに収納された弔慰金は1万2475ウォン50銭に達したという³⁴⁾。30日に挙行するはずだった葬礼式は急な暴雨のため延期されて7月6日に挙行された。午前10時に太古寺で出棺式を行った後、遺骸を載せた車は孝昌園に向かった。太極旗を先頭に、少年軍楽隊、各政党団体の花輪と弔旗、その後に武装警察隊が警護し、続いて、太極旗に包まれた囲ま

れた荷車型の大きな霊柩馬車を男子学生たちが先導し、女子学生らがその後に続いた。霊柩馬車の前には遺影とともに十字架形の死刑台を供えていたため、道端で見送っていた市民たちの心をいっそう悲痛にさせた 350。霊柩車は南大門を通り過ぎて、12 時に孝昌園に到着した。追悼式には金九と李承晩を始め、李始榮、呂運亨、嚴恒燮などとともに、5 万人余りの市民が参席した。午後 1 時から李康勳の司会で始まった追悼式は、趙琬九の式辞に続いて金九をはじめとする何人かの人の送辞の朗読があった。続いて、三義士の遺族から霊前で焼香し、午後 3 時半頃に下棺式を挙行して葬礼式は締めくくられた 360。

4. 顕彰事業

4-1. 上海義举及び殉国記念行事

尹奉吉が殉国した後、金九を始め臨時政府の要員らは、上海義挙の日に当たる 4 月 29 日と殉国日である 12 月 19 日に毎年記念行事を行ってきた。1937 年 12 月 19 日の行事を記録した韓国国民党機関誌『韓民』(1938 年 3 月 1 日付)記事には以下のように記述がある。

某地において午前10時に某場所で一般の同胞が集まり、尹義士の取義5周年記念式を荘厳に挙行したが、当時、韓人愛国団の団長として尹義士を指揮した金九先生が主催して様々な手続きをするなか、嚴恒燮氏による詳細な歴史報告やホ・ウジン(호우진)と李青天の二先生の丁重な記念辞があったとのことである370。

アメリカでも韓人たちは尹奉吉が殉国したとの知らせを聞いて追悼会を開催した。1932 年 12 月 26 日の午後 8 時にロサンゼルスの興士団の団所で国民会の主催で追悼式が行われた。この追悼会では LA 女子愛国団のヒョン・シンソン(현신성)団長と興士のキム・ソングォン(김성권)理事部代表の追悼辞が送られた。また、サンフランシスコ地方会も同じ日の 7 時 30 分に韓国人礼拝堂で追悼会を開催した。洪焉による尹奉吉の略歴発表があり、キムフン(召・き)の追悼辞があった 380。カリフォルニア州中部地方の韓人も同じ日の午後 2 時に教会で 80 人余りが集まって追悼式を挙行した 390。

解放とともに臨時政府の要員たちが続々と帰国した。金九は個人の資格で1945年11月23日に帰国した。金九は帰国直後に尹奉吉の遺族に会いたいと新聞に広告を出した。金九が遺族を探しているという知らせを受けて、尹奉吉の二番目の弟の尹璿儀は甥の尹淙を連れて上京し、12月2日の午前11時半に当時の金九の居所であった京橋荘で金九に会った。尹淙は当時瑞山農林学校の3年生に在学中であった。その席で金九は尹淙の手を握り、遺族の状況を聞いて激励した。そして、13年前に尹奉吉に会ったときの話から虹口公園義挙の進行過程について詳細な顛末を説明した。尹淙は金九に会った後に「なぜか心が張り裂けそうで金九先生を真っ直ぐ拝見することができませんでした。小学校の時に細谷という日本人の教員が私をこの世で一番悪い子だと全校に宣伝していじめられたことを思い出すと腹立たしいです」と話した40。

金九は1946年4月27日に趙素昻、金昌淑、安在鴻、權泰錫らと一緒に徳山の尹奉吉の旧宅を訪れた。 停留場から旧宅までは黄土を敷いて国王級の礼遇で迎えた。金九は尹義士の両親を始め、妻の裵用順、

そして息子の尹淙ら遺族を訪問し慰労した。翌日、旧宅の前で金九や安在鴻民政長官ら各界の人士が出席するなか、義挙 14 周年記念式を挙行した。禮山郡の人士がほぼ出席し、他地域からも婦人会、青年会、警察署、学校などの代表が参席した。近隣の住民たちも参席して黒山のような人だかりになった。式では記念準備会長のキム・ビョンウク(召曳욱)の開会辞に続き、金九の記念辞と趙擎韓の報告があった 41)。午後 4 時に式を終えた金九は曹成煥前臨時政府軍務部長と一緒に尹奉吉の旧宅で一泊した。その日の夜に金九は「どこで葬礼式を執り行えばよいでしょうか」と、尹奉吉の父親に遺骸の奉安から告別式に至るまでの手続きについて相談した。父親は家族全員を集めて家族会議を開いた。その結果「中央に一任しましょう。故郷でもどこでも、みなさま方の意思に一任します」と結論を出して、その旨を金九に伝えた。金九は妻用順夫人に会って「実の娘のように思います。生活に困るでしょうからソウルに来なさい」と勧めた 42)。金九は折々に妻夫人に生活費を送った。送金の名目は「白凡が家主の尹奉吉氏に以前から負っている債務を返す形式」であったという。妻夫人は白凡の配慮からソウル大学病院で婦人病の治療を受けたことがあるが、退院する前日に白凡が暗殺されたために、胸が押し潰される思いであったという。

1946年4月29日は解放後に初めて迎える上海義挙日であった。ソウル運動場で上海義挙を追慕する記念大会が「尹烈士義挙紀念会」の主催で開かれたが、この紀念会を発起した人々は、李承晩、金九を始め、趙素昻、金昌淑、金奎植、權東鎭、洪震、安在鴻など各界の人士83名に達した43。記念式は4月29日の午後1時から厳粛に開催された。式場の中央に祭壇を設けて尹奉吉の遺影を供え、各政党と団体の代表、遺族、来賓と学生など数万人が参席した。記念式では、国旗掲揚と愛国歌の合唱に続いて、金九の記念辞があった。趙擎韓の略歴報告と嚴恒燮の義挙の状況報告の後、2分間の黙祷を捧げた。京畿高女と梨花大学合唱隊の合唱に続いて、李承晩の祝辞があった。さらに、洪震とアーチャー・リーチ米軍政庁民政長官の祝辞をニューマン広報局長が代読し、中国同胞代表の丁元幹と趙素昻の祝辞に続いて共産党代表の洪南杓、韓民党代表の金性洙、人民党代表の申敬哲、新民党代表の白南雲、在米韓族連合会代表の韓始大など、多くの来賓の丁重な祝辞に続いて、金九から遺族への慰問品の贈呈があった440。

1949年4月29日、故郷の禮山郡では旧・湖西銀行前に尹奉吉烈士碑が建立された。この碑は上海義挙16周年を記念して禮山郡教育会と忠清南道烈士遺跡保全会が建立した。碑文は爲堂鄭寅普が創作し、金忠顯が書いた。除幕式には金九も参席し、これを祝賀した45。韓国政府は1962年3月1日に尹奉吉に建国功労勲章の重章を追叙し、その功績を称えた。

4-2. 金沢暗葬之跡碑と殉国碑の建立

尹奉吉の遺骸が故国に安置されてから長い月日が流れた 1990 年に、金沢在住の朴仁祚が市民団体を組織して、尹奉吉が暗葬されていた場所に記念碑を立てる運動を展開した。1946 年の発掘のときに現場責任者であった朴東祚の弟である朴仁祚は、金沢に住んでおり暗葬地の周辺をよく行き来していたという。彼はアジア太平戦争の頃には小学校に通っていたが、毎年の春と秋に陸軍墓地で戦没者慰霊祭が行われる前日になるたびに、大掃除に動員された。また、掃除で集められたごみは先生の指示に従って尹奉吉が埋められていた所の真上で焼却したと言う。尹奉吉が暗葬されていたところが焼却場だったのである。朴仁祚は3年間6回に亘って焼却作業をした。当時はその事実を知らなかったが、発掘後にそ

れを思い出すと、あまりにも悲惨で残酷な気がしたという。彼は日本の「尹義士に対する2重3重の処刑」は真に悪い所業だと思えた。民族の英雄を獣よりも劣等に扱い暗葬したことに怒りを覚えるとともに、自らも反省するようになったという 46)。さらに尹奉吉の遺骸がしばしば夢に現れもしたとのことである 47)。

彼は暗葬地に何の表示もないことを不憫に思い「同じ民族として重大な事実を永遠に記念する義務があり、また、在日の子孫たちにも伝えるべきである」⁴⁸⁾ と考え、暗葬地を永久保存することを決心した。遺体発掘写真 15 枚を在日同胞に証拠として見せて、保存運動を開始した。1987 年には発掘写真と遺骸発掘者が生存しているという事実が韓国側に知られるようになった。これに続いて、1988 年 3 月に尹奉吉の弟である尹南儀と尹炳奭教授が金沢を訪問し、暗葬之跡の保存に向けて協議した。

1991年11月には「梅軒尹奉吉義士義挙60周年記念事業会」(会長:金英三)が組織され、尹奉吉顕彰事業を推進したが、その一環として、暗葬之跡の南西側200メートル上にある30坪ほどの土地に「尹奉吉義士殉国記念碑」が建立された。殉国記念碑は韓国の石で作るべきだと考え、ソウルの忘憂里のハニャン(한守)石材工業で制作した。記念事業会では韓国式の亀形の台石である亀趺と碑身、龍冠を彫刻して金沢港まで運搬した。龍頭は亀の形にし、碑身は縦9尺1寸、横3尺、幅2尺にした。碑の本体は韓国で彫刻し、手すりは韓国の原石を金沢で加工した。記念碑は韓国の方向に向かって立てられた。記念事業会と民団が1992年4月21日の午前11時に開催した除幕式には、李康勳光復会長、朴永錫国史編纂委員会委員長、尹南儀遺族代表、丁海龍在日居留民団長など200余名が参席した49。

一方、朴仁祚ら在日同胞と日本の市民団体は、1990年以降、暗葬地の整備保存運動を繰り広げた。 朴仁祚は暗葬地に碑石を建立し、後世への教育の場とすることを提案した。これにより「指紋押捺問題を共に考え学ぶ金沢市民の会」をはじめ、「真宗大谷派有志」、「カトリック金沢教会『正義と平和委員会』有志」「アジア・太平洋地域の戦争犠牲者に思いを馳せ心に刻む金沢集会世話人会」の日本の市民団体4団体が参加し、1991年1月「ユンボンギルの暗葬之跡を考える会」(以下、「暗葬の会」と略す。会長:鶴園裕)が組織される。暗葬の会では1992年4月13日に金沢市に「永久保存工事計画書」を提出した。彼らは申請書に、この事業は「両民族の友好関係に絶大な助け」となる「国際的な相互理解の具体的な証拠」であり、「過去の歴史に対する反省と未来への展望につながるもの」であるとし、埋葬地を早急に整備し保存することを要請した500。暗葬の会では工事の設計案を確定し、金沢市に提出した後、工事費

200万円を確保するための市 民募金運動を展開した。その 年9月16日に金沢市から設 計案の承認を受け、同時に 6.6平方メートルの暗葬之跡 を永久に無償で貸与を受ける ことが決まった。これにより、 10月16日に起工式が行わ れた。碑石は岐阜県の金相基 が寄贈した自然石に決まっ



図7 尹奉吉義士暗葬之跡の石室

た。

除幕式の前日である 12 月 18 日には、碑石の下の石室に、尹奉吉の略歴を書いた誌石と遺影、そして発掘当時の遺体の写真を入れた。略歴には出生と義挙日、殉国日、発掘日、そして碑石の建立日が刻まれた。暗葬之跡の石室は図 7 の通りである 51)。

除幕式は殉国 60 周年を記念して 1992 年 12 月 19 日に挙行された。「尹奉吉義士暗葬之跡」と書かれた題字は在日書道家・申仁弘の作品である。暗葬之跡除幕式に関して、日本のメディアでは報道が続いた。除幕式の翌日である 12 月 20 日付の『朝日新聞』は「'抗日義士'碑除幕」、『每日新聞』は「戦前の朝鮮の'義士'埋葬跡地を整備保存」、『中日新聞』は「朝鮮独立運動の英雄尹奉吉の足跡を示す石碑完成」、『北國新聞』は「金沢で処刑された韓国義士尹団員埋葬地に石碑」などのタイトルで詳細に尹奉吉の行動や除幕式の内容を報道した。

工事を推進するために、合計 25 回にわたる関連会議が開かれ、延べ 200 余名が参加した。構成員の 民族、年齢、考えや感覚などの差異により、試行錯誤も多かった。しかし、市民団体の構成員たちは団 結によって見事な成果を成し遂げた。

工事完了後に暗葬の会は解散し「暗葬之跡保存会」を組織し、新会長には前国会議員の翫正敏が選任された。工事を監督した朴仁祚は、1993年3月に資料箱を設置し、尹奉吉の功績が書かれたパンフレットとアンケート用紙を収容して、訪問者が利用できるようにした。4月には保存会が金沢市から暗葬之跡の維持管理を引き継いだ。5月には収納家具が作られ、掃除道具を常備できるようにした。保存会では尹奉吉殉国65周年を迎えた1997年に暗葬之跡の入口に尹奉吉が自宅を離れたときに残した「丈夫出家生不還」という詩を刻んだ碑を建てて、周辺にムクゲの花を植えて聖域化した5²²。

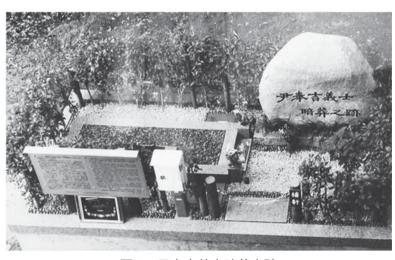


図8 尹奉吉義士暗葬之跡

暗葬之跡は図8のように 墓の形を備えている。発掘 に参加した朴基東の証言に よると、尹奉吉の頭髪は土 と絡んでいて収拾できま かったという。それで、 京から来た発掘要員たちち 協議した結果、暗葬地にそ のまま埋めることにした。 また、遺骨を収拾した朱鼎 均もで、ちる かったという 530。暗葬之 かの工事を推進した朴仁祚

が「永久保存工事をした暗葬之跡は尹義士の墓であるといっても間違いないと思う」⁵⁴⁾ と書いているが、彼の主張には説得力がある。禮山の月進会では朴仁祚を月進会日本支部長に任命し、毎年共同で行事を行ってきた。朴仁祚は碑石が建立されてから 2009 年に亡くなるまで真心を込めて暗葬之跡を管理してきた。朴仁祚が急死した後は彼の甥である朴賢澤が暗葬之跡の管理を引き継いでいる。している。また、

日本人で構成された「尹奉吉義士共の会」(会長:田村光彰)が結成され、月進会の日本支部と一緒に尹 奉吉の業績を顕彰する事業も進められている。

5. おわりに

尹奉吉は死刑執行が延期されたまま日本への移送が決定した。そして、1932年11月18日に神戸港の三菱造船所のドックに移送された尹奉吉は、用意されていた自動車で大阪衛戍監獄に移送され、独房に監禁された。大阪で日本反帝同盟員らの尹義士銃殺刑反対運動が起きるや、日本側は1ヶ月後の12月18日に金沢九師団司令部衛戍拘禁所に尹奉吉を移送した。そして、翌日の朝7時40分頃に陸軍作業場の山麓で死刑を執行した。尹奉吉の遺骸は家族に引き渡されるべきであったが、野田山陸軍墓地管理所の横の通路に暗葬された。もしや墓の盗掘に備えて監視する目的のためだったといっても、これは明らかに遺骸に対する侮辱であった。尹奉吉が殉国した後、臨時政府の要員たちは上海義挙の記念日になると毎年記念行事を行った。在米韓人たちも尹奉吉の殉国を讃える追悼会を開催した。

解放後に帰国した金九ら臨時政府の要員たちは尹奉吉の旧宅を訪問し遺族を慰労した。金九の指示により、1946年3月に「三義士遺骸奉還団」が組織された。尹奉吉の遺骸発掘は徐城民ら金沢在住の青年たちによって3月2日から開始されたが、埋葬地の確認が遅れて3月6日にずれ込んだ。遺骸は東京を経て5月15日に釜山港に到着し、6月16日にソウルにある太古寺に移されたそして、7月6日に盛大な国民葬が挙行され、孝昌園に供えられた。金九をはじめとする臨時政府の要員たちは上海義挙記念日の4月29日と殉国日の12月19日になると毎年記念行事を開催した。

1991年に韓国では梅軒尹奉吉義士義挙 60周年記念事業会が組織され、尹奉吉顕彰事業が展開された。これに続いて、1992年4月には暗葬地の上側に尹奉吉義士殉国記念碑が建立された。金沢の「指紋押捺問題を共に考え学ぶ金沢市民の会」など4つの市民団体は、1991年1月「尹奉吉暗葬之跡を考える会」を組織し、1992年4月、金沢市に暗葬地の永久保存工事計画書を提出し承認された。そして、市民募金運動によって工事費を確保し、1992年12月19日に「尹奉吉義士暗葬之跡」碑の除幕式を挙行した。尹奉吉の暗葬之跡の場所には石室を作り誌石と遺影を入れて、墓の形にした。

暗葬之跡碑が建立されてから今日に至るまで、月進会日本支部と日本人で構成された「尹奉吉義士共の会」は暗葬之跡を保存管理し、尹奉吉の行跡を顕彰する事業を進めている。これは日韓の友好協力、ひいては東アジアの平和構築に大きく寄与するものと信じている。今後、尹奉吉の殉国地も確認して、それを記念する事業も推進できるようになることを期待する。そうなるとき、日韓の民族的な和解を切り拓く契機になるだろう。

注

- 1) 金祥起「尹奉吉の金沢における殉国と殉国地」『韓国独立運動史研究』41 輯, 2012 年. キム・ヒゴン (김희곤)「尹奉吉義士顕彰資料を通して見る上海義挙の歴史的意味」『梅軒学報』3号, 2014年. 田村光彰「尹奉吉義挙に関する日本側の受容様相」『梅軒学報』3号, 2014年.
- 2) 尹奉吉義士喑葬之地保存会では『キョレ通信』という雑誌を1994年12月から刊行し、暗葬之跡の管理・保存

- 事業とともに尹奉吉義挙の事実を知らせる事業を展開してきた(4号からは発行人が梅軒研究会に変わり8号まで刊行された)。最近この団体は「尹奉吉義士共の会」(会長:田村光彰)に改称して活動している。
- 3) 外務省外交史料館文書「金九逮捕のための尹奉吉死刑延期の件」石射総領事内田外務大臣宛, 1932 年 9 月 21 日 (梅軒尹奉吉記念事業会『梅軒尹奉吉全集』(以下、『全集』とする) 2, 2012 年, p.497).
- 4) 『外務省警察史 支那の部 在上海総領事館朝鮮民族運動 未定稿第 4 冊』(『全集』 2、p.434).
- 5) 『大阪朝日新聞』1932 年 11 月 21 日付(11 面)「顔面蒼白の犯人 ランチから自動車へ 人目をさけた早業」.
- 6) 『大阪朝日新聞』1932年11月21日付(11面)「特別警戒で執行を待つ宮井刑務所長談」.
- 7) 朴仁祚「尹奉吉義士処刑前後の公文書による疑惑の推理 眞相に迫る」『キョレ通信』(尹奉吉義士暗葬之跡保存会) 3 号, 1996 年 4 月, p126.
- 8) 当時の大阪には朝鮮人労働者が多数居住していた。1919年3月には、当時、慶應義塾大学の史学科を中退していた廉想渉の主導により万歳示威が計画された地域でもあった。廉想渉ら20余名が大阪天王寺の近隣において宣言書を配布するなど示威のための密議をしている現場が、大阪難波警察署の巡査に探知され、主導者たちが逮捕されたのである。廉想渉はこのときに禁固6ヶ月の刑を受けて獄中生活を送っているときに無罪となり釈放された。また、1927年には所安島私立学校廃止反対運動が天王寺前の広場で開かれ、その後も大阪の朝鮮人たちは天王寺において朝鮮総督の暴圧政治に対して反対デモを行うなど、抗日活動を展開した。
- 9)『陸軍省満密大日記』(防衛省防衛研究所文書・昭和8年), 満密第八九六号其三七 憲高秘第一八二〇号「上海爆弾犯死刑囚尹奉吉死刑執行並ニ憲兵ノ警戒ニ関スル件報告(通牒)」昭和七年一二月二六日, 憲兵司令官秦眞次, 陸軍大臣荒木貞夫殿(『全集』2, p.408).
- 10) 前掲、金祥起, p.372.
- 11) 前掲、『陸軍省満密大日記』(昭和8年)(『全集』2, pp.403-404).
- 12) 金沢で発行された新聞には、尹奉吉が下車した駅が森本駅ではなく「西金沢駅」あるいは「金沢駅」、そして拘 禁された場所も「法務部」あるいは「刑務所」などと報道されており、混乱を招いている。 すなわち、『北國新聞』 には「一八日午後五時廿九分西金沢駅に爆弾犯人を降車せしめて…第九師団法務部に午後六時頃入った」と書 かれている(『北國新聞』1932 年 12 月 19 日付「人目を避けて 西金沢駅に途中下車」、『全集』4, p.491)。また、 同紙には「師団拘禁所に収容の筈だったが折柄拘禁所は修繕中なりしをもって法務部に拘禁…」と報道してい る (『北國新聞』 1932 年 12 月 19 日付 「上海爆弾犯人 三小牛作業場にて今朝銃殺を執行さる」、『全集』 4, p.495)。 一方、『北陸毎日新聞』は「金沢駅のホームに下車、直ちに自動車に乗せられて一先づ金沢刑務所に身柄を収容 され」(『北陸毎日新聞』 1932 年 12 月 19 日(夕刊)「尹奉吉 護送されて けさ死刑を執行さる」)と、金沢駅で 降りて金沢刑務所に収容されたと報道している。これは新聞社ごとに入手した情報が異なっていたためではな いかと思われる。それゆえ、新聞報道の内容をそのまま信じることはできないため、本論文では軍当局の報告 書に従うことにした。軍の報告書は、本文に示した憲兵隊司令官秦眞次が12月26日に陸軍大臣荒木貞夫に送っ た「満密第八九六号其三七 憲高秘第一八二〇号」中の記載「森本駅二下車セシメ同駅ヨリ金沢衛戍拘禁所二至 ル間自動車押送」のほかにも、第九師団長荒蒔義勝が陸軍大臣荒木貞夫に12月21日に送った文書がある。こ の文書にも「同月一八日午後五時憲兵護送ノ下ニ同囚人当拘禁所ニ到着収禁ス」(「満密第八九六号其三六 九師 密第二○号」「尹奉吉死刑執行顛末ノ件報告」昭和七年一二月廿一日 第九師団長荒蒔義勝 陸軍大臣荒木貞夫殿『全 集』2, p.414)と「当拘禁所」に収禁したとしている。また、上述の憲兵司令官報告書には「一二月一九日午前 六時三○分金沢衛戍拘禁所ヲ出発、午前七時一五分、刑場ニ到着シタル」(『全集』2, p.407)と、死刑当日に出 発した場所が「衛戍拘禁所」であることを明らかにしている。これらの憲兵司令官と第九師団長の報告は、刑 執行後にその結果を報告した公式文書として信憑性が高いものと思われる。金沢市の歴史学者である新谷宏も また「検証: 尹奉吉義士最後の夜 in 金沢」(2018 年 4 月) で『北陸毎日新聞』『北國新聞』などの新聞記録を 信用することはできないとしつつ、尹奉吉が最後の夜を過ごした場所を衛戍拘禁所であると結論づけている。 また、新谷は衛戍拘禁所の場所は、石川県立歴史博物館が所蔵する衛戍拘禁所の図面と金沢城内地図から、現 在の公衆便所があるあたりであると考証している。
- 13) 「尹奉吉刑執行ノ件」(『滿密大日記』満密第八九六号其三三)「命令案 第九師団軍法会議検察官根本荘太郎 尹奉吉殺人、殺人未遂、傷害、爆発物取締罰則違反事件判決書ノ通、刑ヲ執行スベシ 陸軍大臣 荒木貞夫 昭和七年一二月一五日)(『全集』2, p.425).
- 14) 前掲『満密大日記』「満密第八九六号其三六 九師密第二〇号」「尹奉吉死刑執行顛末ノ件報告」(『全集』2, pp.414-415).
- 15) 前掲『満密大日記』(満密第八九六号其三五)(『全集』2、p.419).
- 16) 前掲「上海爆弾犯死刑囚尹奉吉死刑執行並ニ憲兵ノ警戒ニ関スル件報告(通報)」(『全集』2、pp.400-401).
- 17) 前掲「上海爆弾犯死刑囚尹奉吉死刑執行並ニ憲兵ノ警戒ニ関スル件報告(通報)」(『全集』2、p.405).
- 18) 同上(『全集』2、p.400).
- 19) 『朝鮮日報』1932年12月21日、「上海爆弾犯人尹奉吉銃殺執行」.

- 20) 任重彬『千秋義烈 尹奉吉』人物研究所, 1975, p.437.
- 21) 裵用順「永遠の夫 尹義士」『나라사랑』25, 1976, pp.157-160.
- 22) 『朝鮮日報』1933年2月13日付,「爆弾犯尹奉吉遺骸下附不能」.
- 23) 前掲, 裵用順, pp.157-160.
- 24) 『朝鮮日報』1945年11月30日付,「尹奉吉先生遺骨奉還会結成」.
- 25) 『朝鮮日報』1945年12月2日付、「尹奉吉遺骨は臨政で奉還」.
- 26) 朴仁祚「そのときの話」『尹奉吉と天長節事件始末』指紋押捺問題をともに考える金沢市民の会, 1992, pp.25-34. キョレ通信編集委員会『尹奉吉義士暗葬之跡』尹奉吉義士暗葬之跡保存会, 1996. 暗葬地を夜中に骨を折って教えてくれたいう説もある(『東亜日報』1946 年 4 月 27 日付)
- 27) 李康勳『民族解放運動と私』第三企画, 1994, p208.
- 28) 『東亜日報』1946 年 4 月 26 日付「血に染まった尹奉吉遺品 いま首都ソウルに凱旋」、『朝鮮日報』1946 年 4 月 27 日付「尹奉吉氏遺品到着」
- 29) 『東亜日報』1946 年 5 月 18 日付「尹奉吉ほか六義士釜山に無言の凱旋」、『釜山新聞』1946 年 5 月 18 日付には「16 日安着し市内南鮮高女講堂に安置…、17 日市内본 8 市立幼稚園に移した後に釜山で追悼会を開催する予定であるという」と報じている。
- 30) 『釜山日報』1946年6月2日付.
- 31) 『釜山日報』1946年6月17日付,『朝鮮日報』1946年6月17日付.
- 32) 『朝鮮日報』1946年6月17日・18日付、『自由新聞』1946年6月16日・18日付、『東亜日報』1946年6月17日・18日付.
- 33) 『東亜日報』1946年6月20日付,『自由日報』1946年6月21日付.
- 34) 『自由新聞』1946年6月24日付「三義士霊前に香奠が還至」.
- 35) 『東亜日報』1946年7月7日付.
- 36) 『ソウル新聞』1946 年 7 月 7 日付「追悼!三烈士の国民葬」、『自由新聞』1946 年 7 月 7 日付「百万市民の嗚咽のなか三烈士の国民葬終了」.
- 37) 「尹奉吉義士の取義 5 周年記念」『韓民』16 号, 1938 年 3 月 1 日.
- 38) 『新韓民報』1932年12月29日付,「尹奉吉義士の追慕式」.
- 39) 『新韓民報』1933 年 1 月 12 日付、「尹奉吉義士の追悼式」、
- 40) 『自由新聞』1945年12月3日付、「尹義士の遺児 淙君 金九先生とついに対面」.
- 41) 『東亜日報』1946年4月30日付、「禮山でも盛大に挙行」.
- 42) 『週刊女性』273号, 1974年4月14日, pp.85-92.
- 43) 『自由新聞』1946年4月23日付、「尹奉吉烈士義挙を崇慕」.
- 44) 『朝鮮日報』1946年4月29日付、「宗高なこの愛国の血潮流れよ絶え間なく幾万代に」。
- 45) 『自由新聞』1946年4月21日付、「尹烈士記念碑除幕式忠南禮山で29日挙行」.
- 46) 朴仁祚「永遠に光り輝く尹奉吉」『キョレ通信』 4号, 1993年4月, p.21.
- 47) 朴仁祚の証言 (2002年、金沢にて).
- 48) 朴仁祚「第4章暗葬之跡保存運動」『キョレ通信』創刊号, 1992年12月, p.37.
- 49) 『京郷新聞』1992 年 4 月 22 日付,「日で尹奉吉義士殉国碑除幕 /60 周忌に合わせ刑場近隣の墓域に」、「尹奉吉義士殉国記念碑」 『キョレ通信』 創刊号, 1994 年 12 月, p.32. 『朝日新聞』1992 年 4 月 29 日付,「友好と相互理解を願って / 銃殺刑の尹さん慰霊碑を建立」.
- 50) 「市側に提出した要請書(92年4月13日)」『キョレ通信』創刊号, 1994年12月, pp.40-42.
- 51) 『キョレ通信』 4号, 1993年4月, p.36
- 52) 『毎日新聞』1997年4月22日付、「朝鮮の抗日運動家尹奉吉の詩碑が完成」.
- 53) 朴基東「跡地に義士の頭髪が」『キョレ通信』 4号, 1993年4月, p.41.
- 54) 朴仁祚「暗葬之跡保存運動」『キョレ通信』創刊号, 1992 年 12 月, p.23.